No.135
2019
Winter

Hachinohe
Institute
of
Technology
Press
SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication

CONTENTS

八戸工業大学

p2−3 新年を迎えて／自動車コース10周年／感性デザイン学部が取り組む地域連携／公開講座

p4−5 自動車整備コンテスト／ COC+イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト／彩才祭／アイスホッケー部／軟式野球部／バレーボール部／新役員／研究室紹介

p6−7 就職支援／ OBメッセージ／図書館の取り組み／小川原湖防災フォーラム／教育改善シンポジウム／仕事始めの会／県文化賞受賞／技能伝承活動功労賞／オープンキャンパス／入試日程／２月～４月行事予定

p8−9 **カラーページ「美術コース誌上卒業制作展」八戸工大二高**

八戸工業大学第一高等学校

p10−11 第49回工大一祭／青森県高総文祭／１学年宿泊研修／２学年修学旅行／３学年研修会／進路中間報告／心の教室／ OBの活躍／消防クラブ訓練／定期演奏会

八戸工業大学第二高等学校

p12−13 金井宇宙飛行士帰還報告会／青森県高総文祭／コンクール受賞報告／美術コース作品展／キャリアサポート／陸前高田ボランティア／銀行出張授業／調理室改修

さくら幼稚園

p14−15 クリスマスはっぴょうかい／かたぐるま／ようちえんってこんなところ／とらんぽりん

八戸工業大学第二高等学校附属中学校

p16 八戸大使ふるさとセミナー／八戸工大との連携授業／科学の甲子園ジュニア全国大会

p16 理事会・評議員会／寄付のお願い

Mobile & iPhone & Android
◀◀◀モバイルサイトへアクセス

新年を迎えて

学長　長谷川　明

新年、あけましておめでとうございます。

本年も皆様が健康で幸せであることを願っています。

本学は、今年も、学生の皆さんが目標に向かって努力され、知識や技術だけではなく豊かな人間性をもつ人材として成長されることを支援して参ります。

昨年、新しい八戸工業大学がスタートしました。北東北の地域大学としての役割をより充実させるため、工学部の生命環境科学科、感性デザイン学部の創生デザイン学科など学科の名称を変更し、創生デザイン学科の「地域づくりコース」、工学部の「海洋土木と海洋生態の海洋学副コース」がスタートしました。また、新設された「特別養成コース」では、スーパーエンジニアや地域活性化リーダーの育成が始まっています。

そのような中、学生の皆さんの成果には大きなものがありました。台風到来の中の学園祭では、学友会の皆さんの頑張りから、昨年以上の入場者を迎えることができました。文化活動も体育活動も熱心に活動してくれました。

今年も、皆さんとともに、学生の成長を支えていきます。教育では本学独自の取り組みによる大学教育再生加速プログラム（AP）を中心に、研究では人口減少やインフラ老朽化の中での元気な地域創生を目指す私立大学研究ブランディング事業を推進していきます。いずれも、文部科学省の採択をいただいて進められている活動です。

これからも、「地域の人材は地域から、地域の課題は地域で」をモットーに、八戸工業大学は発展していきます。今年も、よろしくお願いいたします。

自動車コース設置10周年を祝う

10月６日、本学機械工学科自動車工学コース10周年記念事業として、「自動車工学人材育成これからの10年」パネルディスカッションを開催、高大連携の一環として、八戸工大二高美術コースの生徒が制作した10周年記念イメージイラスト壁画も披露された。

2008年９月30日に自動車に関する学科を有する大学として認定され、本コースは本年度10周年を迎えた。2011年３月に第１期生12名を送り出してから、これまで80名がコースを修了している。本記念事業では、10年間の人材育成を総括し、地域および自動車工学分野でこれから求められる人材像を議論した。パネラーとして、産業界からはトヨタカローラ八戸㈱、SG モータース㈱、行政からは、国土交通省東北運輸局より参加頂き、自動車検査制度や整備士の役割の今後に関する見通しを共有した。学生から「整備士の役割を再認識し、自らの学びの将来に希望をもつことができた。」と感想が述べられた。記念事業については地元新聞の東奥日報や業界新聞の日刊自動車新聞に取り上げられた。

感性デザイン学部が取り組む地域連携

●五戸町中央バス停リニューアル

創生デザイン学科では、五戸町地域おこし協力隊からの依頼を受け、五戸町の中心街にある中央バス停のリニューアルに取り組んでおり、１年生・２年生の有志11名が参加している。交通の利便性を高めるためのバス停のリニューアルではなく、五戸町の価値を高めるための企画提案が目的だ。

９月に行ったフィールドワークでは学生がグループに分かれて五戸の中心街を調査し、外部の人の視点で街の特徴を抽出した。活動に参加した田中舘瑠花さん（１年／八戸東高）は「私は五戸町出身なので、この活動に参加しました。私と五戸町以外の出身の人からみた五戸町は全然違って、新たな魅力に気づけました。五戸町の人が親しめるようなバス停をつくりたいです。」と感想を述べた。

学生達は、町の特徴を活かしたバス停リニューアルの提案を地元の人達と協力して実現するべく、活動を続けていく予定である。

●南部町５農家と連携したデザインプロジェクト

本年度前期に実施された創生デザイン学科３年生の授業で、農業のために何がデザインできるかを模索し、青森県南部町を舞台に、地元の５つの農家と連携して新たな観光資源となる生活風景や物産品の創出を目指した。学生たちは、すももの樹の剪定や、稲の種まき、南部ふとねぎの栽培準備などを手伝い、作物の生産プロセスを体験的に学びながら南部町の農業や作物の魅力や価値を導き出し、物やサービスのデザイン開発を進めた。

成果発表では、「だれでも農家になれる市民参加型マイクロ菜園支援システム」や「赤いずきんとかごを持って南部町の果物を手摘みしながら果物畑を散歩するグリーンツーリズム・南部町赤ずきん計画」など南部町ならではの特徴を活かしたデザイン構想が提案された。

好評、ジュニアから参加できる公開講座

ジュニア･ドローン･プログラミング体験講座 ～スクラッチでドローンを飛ばそう!～

2020年度から学習指導要領の改訂で小学校のプログラミング教育の必修化が始まることから、子ども向けに様々なプログラミングの教材が出ている。これを受けてシステム情報工学科では、10月27日メディアセンターにて、子どもたちが楽しくプログラミングを体験できるよう Scratch（スクラッチ）というソフトを使用し、ドローンの操作をテーマにジュニア・ドローン・プログラミング体験講座を実施した。参加者のほとんどが小学５年生と６年生であった。教材は、「プログラミング教育」をテーマに卒業研究に取り組んでいる同学科の４年生が制作し、当日のインストラクターも担当した。

最初に Scratch を学び、次にドローンの基本的な操縦プログラム、コースを周回する自動操縦プログラム、キーボードから遠隔操作するプログラムの順番で取り組んだ。アンケートには、「プログラムを組んでドローンを飛ばすのが楽しかった」、「ロボットを動かしてみたい」など、子どもたちが楽しむ様子がうかがえるものばかりであった。

小久保　温（システム情報工学科　教授）

生物の多様性を知る

青森県は比較的高い緯度帯に位置しているにもかかわらず、海洋環境は変化に富んでおり多様な海洋生物が分布している。海洋生態系に関する本学の研究成果を広く知ってもらい、海洋生物や海洋環境に興味をもってもらいたいと、11月17日、メディアセンターホールにて公開講座「生物多様性を評価せよ！」が開催された。

参加者は説明の後、ピンセットとルーペを使い、複数の海域で採集されたイワシの稚魚や混獲された海洋生物の幼生を海域ごとに分類し、種類ごとに数を数えた。試料の中には、タコ、エビ、カニや名前の分らない魚の稚魚も多く交じっていた。まれにタツノオトシゴもあるという話を聞くと、大人も子どもたちも熱中して分類に取り組んでいた。見つけた稚魚がタチウオと判ると、歓声をあげる一幕もあった。

参加者は、生物の多様性を高く維持するためには、生物の種類が多いだけでなく、均等度が高いことも必要であると学んだようであった。

田中　義幸（生命環境科学科　教授）

「住みたい家･住みたい街」コンクール

土木建築工学科公開講座「住みたい家・住みたい街」コンクールが2016年に再開され、今年度で三年目を迎えた。このコンクールは、八戸市内の小学校５・６年生を対象として、小学生の皆さんが自分たちの家や街について関心をもち、これから地域を支える人間として育つことを願って企画された。毎年100件を超える応募作品から優秀作品五点について本人による発表を行い最優秀作品を決めている。予想をはるかに上回る小学生のプレゼンテーションには驚かされる。

応募作品は「建物づくり案」、「まちづくり案」、「活動･しくみ案」の大きく三つに分けられ、かたちとしくみの提案を掛け合わせたアイデアが多い。箱物に依存しない福祉系の活動提案もあり、昨今の社会問題を反映した多様性のある内容となっている。

最優秀作品は、海辺にある子ども向けブックセンターを提案したもので、アイデアの秀逸さに加えて緻密でダイナミックな画力が評価された。

地域の未来を支える示唆に富んだ作品集は、市庁を始め市内各所で巡回展示された。

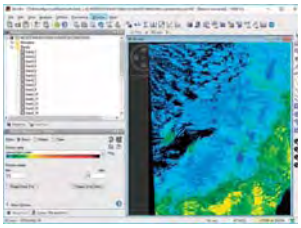
小藤　一樹（土木建築工学科　准教授）

オープンソースソフトウェアで学ぶ衛星リモートセンシング講座

衛星リモートセンシングは比較的新しい技術ではあるが、その解析やデータの入手に非常に大きなコストが必要で、一般には親しみにくい分野であった。

ところが近年、Google Earth などにより無料でかつ手軽に衛星画像を閲覧できるようになり、また様々な種類の衛星画像が無償で公開されるなど、急速に身近な存在になった。本講座では、無料で入手できる解析ソフトウェアと、無償公開されている高解像度衛星画像を用いて、受講者に衛星画像解析の基本の一つである植生解析を実際に体験してもらった。

講座の内容はやや難易度が高かったが、受講者は実際に解析画像が出力され、自分の身の回りの環境の様子が数値として表れていることに驚いていた。

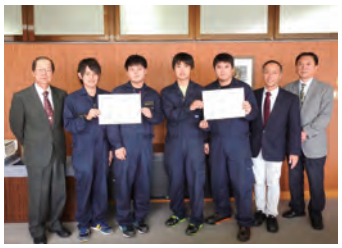


今後衛星リモートセンシングは利用が促進され、農林水産業や災害対策、考古学など様々な分野への活用が期待されるが、そのためには対象にあった解析手法の開発が必要である。本学ではこうした手法の開発に取り組んでいると云うことを紹介し、講座は修了した。

佐々木崇徳（電気電子工学科　准教授）

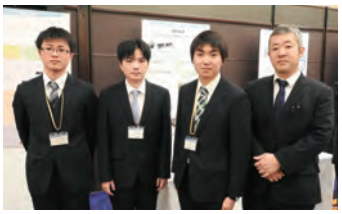
自動車整備コンテスト2位

10月20日、宮城県仙台市にて第33回自動車整備コンテスト（(公社）自動車技術会東北支部主催）が開催され、自動車工学コースの学生12名が参加した。コンテストは２名１チームで、学科50点、実技50点の総合点で競われた。コンテストに参加した４名が、長谷川明学長を訪れ２位獲得の報告をした。４年生の杉山敏紀さん（青森商高・写真中央）は「今回で２回目の挑戦となった。苦手としていた箇所を集中的に学習してきた。最終結果は２位であったが、１点差で１位を逃してしまったのは悔やまれる。自分ひとりで判断せず相手の意見にも耳を傾け、チームで確認することの大切さを学んだ。学科試験では高い正解率であったが、国家試験に向け詰めが甘いと感じた。気を抜かず勉強していきたい。」と語った。



学生による地域活性化アイデアコンテスト

12月１日、グランドサンピア八戸にてCOC+「イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2018」が開催された。本学からは、標準語を方言（南部弁）に翻訳するアプリケーション「OK,Hougen!」を提案した方言研究会（写真上）と、ロボットキットを提案したエヂソン倶楽部（写真下）の２チームが参加した。児童生徒参加のロボットコンテストを八戸の文化としてとらえ企画提案したエヂソン倶楽部は、独自性と地域性などを評価され審査員特別賞を受賞した。



このコンテストは、本学・八戸学院大学・八戸工業高等専門学校の学生が参加し、地域の活性を目標に地域性を活かした製品作りやシステムのアイデアを競う場となっている。

彩才祭（さいさいさい）を終えて

11月10日・11日、ラピア２階ラピアホールにて文化会主催「彩才祭」が開催されました。私達文芸愛好会は、部員が制作した短編集を来場者に配布しました。

今年は短編集に、外部コンクールにおいて入賞した作品を収録しました。来場者の方々が冊子を手に取るたびに「面白そう」と言ってくださったことは、私たちにとって大変うれしく今後の励みになりました。他のブースも充実しており、彩才祭を自ら楽しむ仲間たちを見て、来年も来場者に興味をもってもらえるような作品を仕上げたいと思いました。

文芸愛好会　**佐々木　汰一**（生命環境科学科３年／岩手・釜石高）

アイスホッケーインカレ出場

北海道苫小牧市を会場に平成30年12月25日～29日の日程で、第91回日本学生氷上競技選手権大会のアイスホッケー競技に、本学アイススケート部（ホッケー部門）が出場した。１回戦では関西の強豪チームである同志社大学と対戦し、開始１分46秒で先取点を取ったものの、その後は全国レベルの差を見せつけられ、結果は１対15で敗退。３年連続インカレ出場を目指し、2019年度シーズンに向けてまた努力を続けたい。

軟式野球部、奥羽地区予選突破！ 東日本大会出場

９月29日、軟式野球部は東日本大会奥羽地区予選会を勝ち進み、決勝戦では４対１で弘前大学を破り優勝した。奥羽地区代表として東日本大会に出場するのは２年ぶりである。東日本大会は千葉県を会場に開催され、本学は11月18日成田市ナスパ・スタジアムにて日本大学工学部と対戦し、悔しくも１対10で敗退した。東日本大会出場常連校をめざす軟式野球部にエールをおくる。

東北バレーボール大学リーグ戦全日程終了 インカレ出場逃す！

10月21日、平成30年度東北バレーボール大学１部リーグ戦（兼全日本バレーボール大学選手権大会（インカレ）予選）の全日程が終了した。

本学バレーボール部は、総合第７位（春季第６位・秋季第７位）となり、昨年に続く全国大会出場を逃す結果となった。監督は「来年度は、最大の目標であるインカレ出場を果たせるよう、チーム一丸となり練習に励んでまいります。」と語った。

新役員決まる

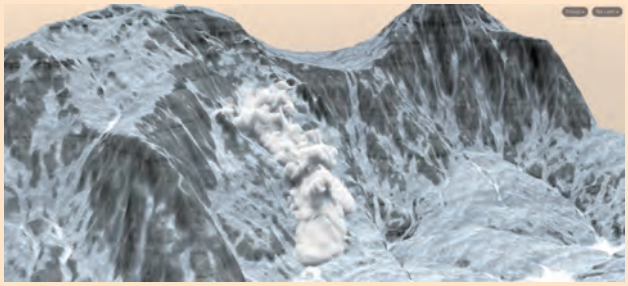
11月、学友会、体育会、文化会の2019年度役員選挙が行われ、新役員があいさつに長谷川学長を訪れた。２月開催のリーダーズ研修会が、初仕事となる。（学年は2018年度）

学友会委員長　**小笠原　永保**
生命環境科学科２年（前列左から３人目）
体育会会長　**石橋　和樹**
生命環境科学科２年（前列右から２人目）
文化会長　**田口　翔太**
生命環境科学科２年（前列左から２人目）

コンピュータシミュレーションを用いた自然災害の防災・減災対策

高瀬研究室では、コンピュータシミュレーションを用いた自然災害の防災・減災対策の研究に取り組んでいます。津波による被害想定、集中豪雨に起因する地すべりや雪崩などの斜面災害に対して、シミュレーションを行い、効率のよい対策方法の検討や提案を行っています。これからも、地域の安全のために貢献できる防災・減災対策の研究を行っていきたいと考えています。

高瀬　慎介（土木建築工学科　講師）



雪崩の解析結果（可視化協力：システム情報工学科伊藤研究室）

明るく楽しいゼミ活動 !!

高屋研究室では、ポスターなどのビジュアルデザインや生活用品などのプロダクトデザインをはじめ、地域企業との連携プロジェクトを推進しています。ゼミの時間は、たとえ課題が出来ていなくとも、元気に挨拶をすることが鉄則です。現在３年生６名のゼミ生は、バスケット少年、自転車選手、４歳から書を嗜む書道家、相撲大好き青年、プロ顔負けのパティシエなど多彩です。ゼミが終わったあと、学生お手製のケーキで心癒される時間もあり、楽しく活動しています。

学外コンペにも、積極的にチャレンジしています。昨年９月八戸みなと漁協の新施設ネーミング募集に、研究室の案を応募しました。暑い中、皆で汗を流して作成した案が、幸運にも採用されました。2019年４月の施設オープン時には、大看板やパンフレットにも掲載されます。浜市場「みなとっと」、みんなで魚（とっと）を楽しむ海の街を願って作りました。「みなとっと」が八戸市民に愛され、多くの観光客が訪れる場に成長することを期待しています。

大学時代の友人は生涯の宝物です。友人やゼミ生の絆を深めて、多くの思い出をつくり経験を深めて欲しいと願っています。

髙屋　喜久子（創生デザイン学科　教授）

食生活と発酵

本田研究室では、「植物性乳酸菌」を研究しています。漬物やみそなどには乳酸菌が生息していますが、そこから採取してきた乳酸菌のことを「植物性乳酸菌」と一般的に呼んでいます。乳酸菌の中には生きてヒトの腸まで届き、便通を改善するなど良い働きをする菌が存在します。ヨーグルトの乳酸菌と植物由来の乳酸菌では種類や性質が異なるものがいて、そんな乳酸菌の可能性を明らかにして、ヒトの健康や食生活に役立てたいと考えています。着任１年目の今年度は、次の研究を開始しました。青森県内の漬物（発酵食品）にはどんな性質の乳酸菌が棲息しているのか？　県内各地の水質は乳酸菌の発酵性にどのような影響を与えるのか（ミネラルによる違いがあるのか）？　乳酸菌でリンゴ果汁を安定して発酵させるにはどうしたらよいのか？　といった課題です。

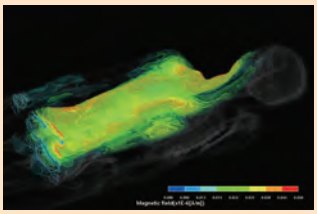
４月に八戸に住み始めてから、とくに感じるのは、新鮮な魚介類など「おいしいもの」がとても多いことと、各地に湧き水が多数存在していて地域の方々が大切に管理をなさっていることです。そのような人々の暮らしにスポットを当て、そこから有用なシーズを発掘したり、新たな技術を生み出していきたいと思っています。

本田　洋之（生命環境科学科　講師）

スパコンでのシミュレーションと医療応用

杉本研究室ではコンピュータシミュレーションを研究しており、特にスパコンを用いた大規模なシミュレーションをテーマにしています。人が集って事を成そうとする機会は多いですが、集う人が増えるほど彼らを適切にとりまとめて効率よく事を運ぶのは難しくなります。それはスパコンでも同じです。今のスパコンは数万～数百万の小さなコンピュータの集まりです。そんなたくさんの小さなコンピュータをうまく連携させてシミュレーションする研究をしています。

研究成果の応用のひとつとして、温熱治療器のシミュレーションをしています。これは電磁波で加熱することで癌を殺す医療機器です。体内の温度分布を正確に知る必要がありますが、患者さんに温度計を挿すわけにはいかないため実験が難しく、シミュレーションの出番となります。しかし、人体はたいへん複雑なためスパコンを用いる必要があります。そこで１兆自由度という規模を目標に研究を続け、これまでに160億自由度のシミュレーションに成功しています。図は右上半身の磁場分布を等値面で表示したものです。この研究によって、癌で長く苦しむ患者さんを少しでも減らせることを願っています。



杉本　振一郎
（機械工学科　講師）

最近の就職環境について

最近の就職環境は「売り手市場」と報道されているように、企業側の採用意欲が高いまま推移しており、卒業生の就職内定率も高水準を維持しています。

求人に関する情報は大学に直接寄せられるほか、就職情報サイトや企業のホームページなどで提供されており、非常に多くの選択肢から自分自身の希望にあった企業にチャレンジすることができます。

このような状況下ですが、「売り手市場（＝学生優位）」であるのは応募企業を選択するまでで、採用試験の合否は企業側に決定権があります。企業側の採用基準はほとんど下がっておらず、将来自社に利益をもたらしてくれる（であろう）人材を採用するため活動しています。

就職環境は、世界の政治・経済の変化や技術革新による社会構造の変化などで、景気や働き方が大きく変わる可能性があります。周囲の情報に惑わされることなく、しっかりと学修するとともに、就職への準備も怠らず、皆さんが卒業時に満足のいく就職ができることを願っています。

就職課長　**栗橋　秀行**

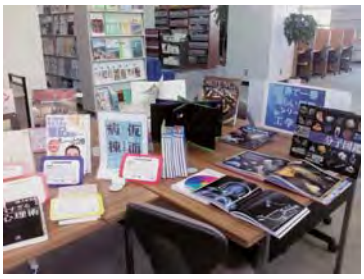
～OBからのメッセージ～ 教職を目指す皆さんへ

11月26日、猪苗代町立猪苗代中学校（福島県）で教鞭をとる小野泰弘さん（電気工学科平成８年度卒）が本学に招かれ、「中学校教員の視点で」と題し、法令に関わる服務と勤務、保護者対応など教育現場の実際、教員としてのやりがい（クラスづくりや、クラブ活動他）など、教育現場の実例を交えて講演を行った。42歳で教頭になった小野さんは、「人生に無駄なことはひとつもない、多少の遅い早いはあるが、人間は出逢うべき人には必ず会える。」と教員を志す学生にエールをおくった。

図書館、今年度の取組み

図書館は、大学での教育・研究活動に必要な図書や雑誌を中心とする資料を通して利用者に情報の提供を行っている。また、視聴覚資料、インターネット環境が整っており、レポート作成や研究活動のための文献調査に利用でき、学生・教職員はもとより地域にも広く開放している。

１．学園祭展示：10月６日・７日開催の学園祭では、普段は目にすることができない蔵書や学生から購入希望があった図書などを展示した。（上段）



２．八戸学院大学図書館との合同企画「読書週間図書交換展示」：読書週間に伴い、双方の図書館蔵書に少ない分野の図書を交換。館内で閲覧できるよう展示した。（中段）

３．平成30年度青森県高等教育機関図書館協議会研修会：11月30日、本学を会場に、国際教養大学中嶋記念図書館館長　加藤信哉氏を招き「これからの大学図書館を考える」と題してご講演いただき、今後の大学図書館について学習・教育支援、研究支援、社会貢献の三つの側面について意見交換を行った。（下段）

地域の安全を守る

11月15日、小川原湖防災フォーラムにて「高瀬川水系の自然災害」と題し、本学大学院佐々木幹夫教授（社会基盤工学専攻）が基調講演を行った。

佐々木教授は、地域に被害を及ぼした過去の自然災害をふり返り、自然の力は強大で破壊力も大きくなっており、時に人は身を引くことも肝要である。予想を上回る自然災害が多くなっているいま、事前に減災対策することは、被害を軽減化し社会の復旧力向上に役立つ。生き延びるために、現在進んでいる地域防災計画の更なる見直しが必要と訴えた。

教育改善シンポジウム

12月26日、「学生の人間性・自立性・自主性等を伸ばす～実践例の情報共有と今後の展開～」をテーマに、平成30年度第２回教育改善に関するシンポジウムが開催された。

システム情報工学科からは、外部団体と協定を結び、企業から発注されたソフトウェア開発を学生中心に行う取り組みが紹介され、創生デザイン学科からは学生の正と負の様々なストレスのコントロールには『学生間でのセーフティーネット構築』が必要であると考え、学科内交流を図っている事例が紹介された。

～学校法人八戸工業大学～ 仕事始めの会

１月４日、八戸工業大学、第一高校、第二高校、附属中学校、さくら幼稚園の教職員、学校関係者が一堂に会し、学校法人八戸工業大学仕事始めの会が行われた。柳谷利通理事長より年頭の挨拶として、少子化と地域経済格差から私立学校が厳しい状況に置かれていること。教育と地域活性化・産業発展のため熱い情熱をもって本法人が開学に至ったこと。青少年への高等教育の場の提供と地域貢献にかける学校法人の思いは開学60年経った今も変わらず、教職員一同これからも和をもって精進して欲しいことが語られた。引き続き各学校園の長から挨拶があり、参加者の交流がはかられた。

2018年度青森県文化賞受賞 月舘敏栄 元本学教授

11月５日、青森市にて2018年度青森県文化賞表彰式が行われ、元本学土木建築工学科教授月舘敏栄氏（写真後列右）が県文化賞を受賞した。月舘氏は、1977年本学に着任以来およそ40年にわたり教育と研究に尽力された。建築家として公的な構築物の設計者という一面も持ち、伝統的建築物のデザインや構法、自然災害の被害と対策の歴史を研究。現在は雪国文化研究室代表を務め、退職後も研究のかたわら後進の人材育成に努めている。

黒滝工師、技能伝承活動功労者受賞

11月15日、青森市にて青森県職業能力開発協会主催の「第48回青森県職業能力開発促進大会」が開催され、本学工作技術センターの黒滝稔氏が技能伝承活動功労者表彰を授与された。「技能伝承活動功労者」とは、若年技能者を対象に、ものづくりマイスターおよび熟練技能者として、長年にわたり高校等教育機関で指導に務めた功績が認められた者に贈られる賞で、黒滝工師は長年の活動を認められての受賞となった。

春のオープンキャンパスを開催します

日時：2019年３月17日（日）10:30～14:30
内容：学科見学、キャンパスツアー、大学周辺バスツアー、学科紹介ブース、学生生活紹介、保護者向けガイダンス、学食体験、相談コーナー　ほか

新イベントとなる“学生生活紹介”では、在学生がそれぞれの日常を紹介します。
「大学ってどんなところ？」「授業についていける？」「一日のスケジュールは？」など、皆さんの疑問にもお答えします。
このほかにも、さまざまなイベントを準備しております。ぜひご家族でご参加ください！

詳細は決定次第、本学ホームページにてご案内いたします。
お問い合わせ：0120-850-276（入試課フリーダイヤル）

2019年度入学試験日程

入試区分	クール	エントリーカード受付期間(必着)	面　談　日
ＡＯ入学試験	第３クール	１月28日(月)～２月１日(金)	２月８日(金)
	第４クール	３月１日(金)～３月８日(金)	３月15日(金)
入　試　区　分		願書受付期間(必着)	試　験　日
一般入試（後期）	後期	３月１日(金)～３月11日(月)	３月18日(月)
大学入試センター試験利用入学試験	中期	２月１日(金)～２月15日(金)	平成31年１月19日(土)・１月20日(日)の大学入試センター試験
	後期	３月１日(金)～３月21日(木)	

２月～４月行事予定

２月	７日～14日	学部後期補習・再試験
	８日	AO入試第３クール
３月	15日	AO入試第４クール
	17日	オープンキャンパス③
	18日	一般入試後期試験
	20日	平成30年度学位記授与式
４月	３日	2019年度入学式
	４日・５日	ガイダンス
	５日	開講試験（１年生）
	６日	授業開始

八戸工大二高 美術コース 誌上卒業制作展

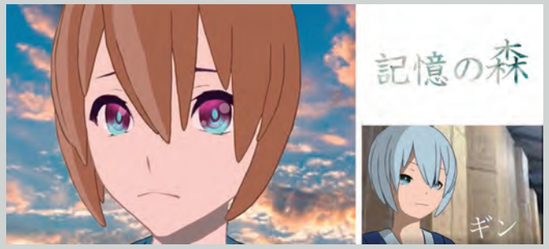
「靴」イラスト／S20　上平 未桜（八戸東中）

「ポウ」日本画／F40　清水 優花（南浜中）

「リュウグウノツカイ」油彩／F60　菅原 優（百石中）

「始点」油彩／F50　信田 優花（道仏中）

「願」日本画／F40　宮古 真奈（堀口中）



「記憶の森」映像３分　北田 早紀（大館中）

「一つの嫌いを利用して新たな好きを沢山発見する実験」油彩／F100
後藤 果歩（八戸第一中）

「階上　磯潟大明神」水彩画／B2
山中 真輝（階上中）

「お馬様」レリーフ／B1
髙橋 康太（八戸東中）

「旧図書館」油彩／F60
小川 愛佳（三沢第一中）

「空・森・水に住む」アクリル画／B1　小屋敷 琉奈（八戸東中）

「うさぎ」立体　西舘 菜々（中沢中）

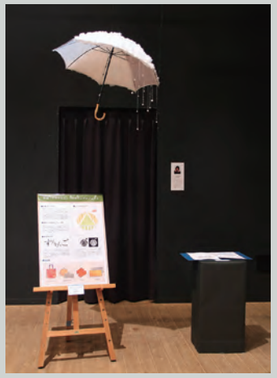
「告知」油彩／F100　橋本 嵩斗（根城中）

「廃校の教室」油彩／F60　関下 瞳（小中野中）

「白ヌリ」メイク＋写真　嶌守 寛真（白銀南中）

「淡、瞭、静、郎、彩」水彩画／B3　館石 嘉奈子（根城中）

「S／S COLLECTION」トルソー、油絵、他
鈴木 海智（白山台中）



「選べる」立体
苫米地 柚乃（八戸東中）

「イカ缶デザイン」CI デザイン／A3×4　中居 可南（八戸東中）

「ドラゴン」紙立体　福山 明里（根城中）

第49回 工大一祭

10月27日・28日、第49回工大一祭が開催された。今年度も、恒例の各部の模擬店のほか、各科・各学年の工夫を凝らした展示や、熱のこもったステージ発表が行われ、どれも来場者の目をくぎ付けにする程見応えのあるものであった。生徒、保護者、教職員が一致団結し、平成最後に相応しい工大一祭となった。さらに、昨年を上回る1600名以上の来場者を迎え、盛況のうちに終えることができた。

青森県高校総合文化祭

10月12日～14日（放送部門は27日・28日）、東青・下北地区を中心とした会場で、第39回青森県高等学校総合文化祭が開催された。本校からは写真部、美術部、将棋部、JRC部、吹奏楽部、放送部が出場した。

美術部門では、清川竜乃介君（建築コース２年生／三条中）（写真左）のアクリル画が優良賞を受賞し、平成31年度第43回全国高総文祭出品予定作品に選出された。

写真部門では、姥神健斗君（電子通信コース１年／八戸東中）の「癒されて」、下斗米優世君（建築コース３年／白山台中）の「真珠の輝き」という２点の作品がともに優良賞を受賞した。

2学年 修学旅行

12月３日から４泊５日の日程で、２学年の修学旅行が行われた。１日目は、広島を訪れ、原爆ドームや平和祈念資料館を見学し、折り鶴を献鶴した。その後、被爆された方の体験談を拝聴し、被爆された犠牲者や遺族の方々の気持ちを思い、平和の尊さを考えた。２日目は、宮島に渡り、厳島神社を参拝した後、奈良に移動し、東大寺を見学。３日目は、京都でのタクシーを利用しての班別自主研修。古都、奈良・京都の世界遺産や文化遺産を見学することにより、その趣を感受し、日本文化の良さを学ぶことができた。４日目は、金閣寺を見学し、午後はUSJで楽しんだ。５日目は、大阪、通天閣のある新世界界隈の散策をし、名物の串カツを堪能し帰路へと着いた。

事故や病気もなく、無事に帰還することができ、集団生活、団体行動、友人とのふれあいを通じて、規範意識、責任感、社会性の向上を図ることのできた修学旅行だった。

1学年 宿泊研修

12月５日～７日の日程で、国立岩手山青少年交流の家で１学年宿泊研修を実施した。研修では、①企業見学、②進路学習（自己振り返り）、③人間力育成講座、④集団行動、⑤映像学習、⑥クラス対抗競技大会、⑦スケート教室のプログラムが行われた。生徒間で普段は見られない交流や誘いあいの行動が見られ、時間に遅れることもなく順調に研修を進めることができた。学年の仲間や教員との親睦を深め、意義のある研修となった。

3学年 研修会

12月５日から３日間の日程で、「社会人として必要となる知識を習得する」ことを目的に３学年研修会が実施された。初日は年金セミナーに始まり自動車の免許所持に関する講座、そして最後は身だしなみ講座でスーツの着こなし方、ネクタイの結び方、ナチュラルメークの仕方などを学んだ。２日目は競技大会のほか、市内の各ホテルでのテーブルマナーがあり、少し緊張しながらも楽しく食事をしている姿が印象的であった。最終日は、「八戸市（近郊）を知ろう！」というテーマのもと、美術館、博物館、三沢航空科学館などの公共施設を見学したあと、テクノルアイスパーク八戸へ移動し、中ズックホッケー大会で大いに盛り上がった。貴重な体験をした３日間となった。

進路 中間報告（12月14日現在）

就　職

＜県内企業（管内）＞

青葉水道サービス㈲
㈱青森ライト青森工場
㈱石上建設
㈱伊藤建設工業
㈱岩岡
エム・ビー・エム・王子ホームプロダクツ㈱
オガテック㈱
オートガード八戸㈱
㈱京谷電気
ケイワークス㈱
高周波鋳造㈱
合同酒精㈱酵素医薬品工場
興陽電設㈱
㈱光洋鉄工
㈱シェルビー
島守ダクト㈱
㈱下舘組
老人ホーム瑞光園
㈱大三建設
泰信電気工業㈲
大平洋金属㈱
㈱田名部組
多摩川ハイテック㈱
㈱ツーワン輸送
テクノクラフト・シー・アンド・ヴィ㈱
㈱D−LIVE
東復建設㈱
東邦建設㈱
㈲東和ステンレス機材
トヨタカローラ八戸㈱
南部架設㈱
南部電機㈱
八戸港湾運送㈱
八戸製錬㈱
八戸セメント㈱
㈱八戸電工
八戸燃料㈱
八戸プラザホテル
八戸臨港倉庫㈱
浜浦工業㈱
プライフーズ㈱
北辰工業㈱
㈱マーケットサポート
三菱製紙エンジニアリング㈱
陸奥工業㈱
㈱山匠電気工業
㈱ユニバース
㈱よこまち
ワタキューセイモア㈱東北支店八戸営業所
ル・スッブラン

＜県内企業（管外）＞

青森綜合警備保障㈱
青森プライウッド㈱
大泉製作所㈱十和田工場
㈲柿崎左官工業
㈱JPビジネスサービス
㈲浄法寺工務店
相馬村農業協同組合
弘前中央青果㈱

＜県外企業＞

阿部農機㈱
㈱石井組
一条工務店㈱
㈱インテック
㈱エムズ・グロー
㈱カクヤス
㈱カメラ・ペル・バンビーニ
㈱基行
共立タイル㈱
高栄警備保障㈱
恒栄電設㈱
山九㈱君津支店
三進工業㈱
三東電気工事㈱
山陽電気工事㈱
JR盛岡鉄道サービス㈱
JFEウイング
住協建設㈱
㈲新真板金
新日鐵住金㈱君津製鉄所
新日鐵住金㈱室蘭製鐵所
新日本無線㈱
スガテック㈱東北支社
㈱全日警
第一ダイヤモンド工事㈱
㈱第一ビルメンテナンス
㈱ティーガイア東北支店
デーバー加工サービス㈱
㈱テツゲン君津支店
㈱電匠西
㈱東京組
東京電力パワーグリッド㈱
㈱トッパンコミュニケーションプロダクツ
トピー工業㈱綾瀬製造所
トピー工業㈱神奈川製造所
㈱西原衛生工業所
日産自動車㈱
濱田重工㈱君津支店
㈱バロックジャパンリミテッド
東日本旅客鉄道㈱
㈱日立ビルシステムエンジニアリング
ブリヂストンリテールジャパン㈱北日本支社
古河電気工業㈱
北海道旅客鉄道㈱
三島光産㈱鉄鋼君津事業本部
向井建設㈱
山崎製パン㈱
山崎建設㈱
㈱ユアテック
ユニオン建設㈱
吉川工業㈱

＜公務員＞

海上自衛隊
陸上自衛隊

進　学

＜4年制大学＞

岩手大学
福島大学
青森公立大学
八戸工業大学
神奈川大学
関東学院大学
埼玉工業大学
札幌学院大学
札幌国際大学
上武大学
専修大学
仙台大学
千葉科学大学
中央学院大学
中京大学
東海大学
東北学院大学
東北工業大学
東北福祉大学
東洋大学
日本体育大学
白鴎大学
八戸学院大学
法政大学
山梨学院大学

＜短期大学＞

仙台青葉学院短期大学

＜専修学校＞

八戸工科学院
青森営農大学校
仙台医健スポーツ&こども専門学校
東北メディカル学院
八戸保健医療専門学校
盛岡医療福祉専門学校
アミューズメントメディア学院
アレック情報ビジネス学院
岩手理容美容専門学校
（同）金田社寺建築
北日本ハイテクニカルクッキングカレッジ
北日本ヘア・スタイリストカレッジ
光塩学園調理製菓専門学校
千葉職業能力開発短期大学校
デジタルアーツ仙台
日本工学院専門学校
日本工学院八王子専門学校
日本デザイナー芸術学院
八戸理容美容専門学校
バンタン服飾学院
ヒューマンアカデミー横浜校
代々木アニメーション学院

心の教室

10月29日、心の教室が行われた。今年は女子レスリング界のスターである吉田沙保里さんを招き、「夢実現のために～自分の生き方にこだわる」と題して講演をして頂いた。吉田さんの父親である栄勝氏は本校の卒業生であるという繋がりもあり実現した。講演は、旧知の仲であるレスリング部顧問の大館信也教諭とのトークショー形式で行われた。事前に生徒から募った質問事項に、吉田さんからそれぞれ丁寧に回答していただくという終始和やかな雰囲気の中進められた。

生徒からの「辛く辞めたくなったらどうしますか？」という質問に、「１人で悩まず相談すること、何故この競技をやっているのか原点に戻り、もう一度覚悟を決めること」と答えられた。講演後、１年生の野球部の生徒は「目標を失いかけた時、吉田沙保里さんの体験を参考に、何故工大一高に進学し野球をやっているのか、野球をやる意味を原点に戻って考え直します」と感想を述べた。

OBの活躍

10月25日にプロ野球ドラフト会議が行われ、本校卒業生の内山太嗣選手（平成27年度電気コース卒／平賀東中）（写真中央）が東京ヤクルトスワローズから指名を受けた。12月上旬に、球団側と仮契約を交わし、ヤクルトの一員になった。本校硬式野球部の長谷川監督は、「一日でも長く、全国の皆様に応援して頂ける野球人生を歩んでくれることを願っている。」また本人も、記者会見の中で「青森の子供達に夢や希望を与えられる選手になりたい。」と述べた。純粋な思いと感謝の気持ちを忘れず精進し、青森の星になることを期待したい。

消防クラブ訓練

11月10日、八戸消防本部八戸消防署にて消防クラブ訓練が行われた。消防本部の方より消防業務は災害活動、救助業務、救急業務に分かれていることや勤務時間、福利厚生についての説明がされた。

高度救助隊による訓練の見学では、人命の救助に関する専門的な教育を受けた隊員たちの機敏な行動に圧倒された様子だった。

他にも、司令センターや消防車両内の見学をし、普段見ることのできない貴重な様子に生徒は興味を示していた。

第47回 定期演奏会

11月14日、第47回定期演奏会が八戸市公会堂ホールで開催された。八戸地区をはじめ中央で活躍しているOB・OG、地域の吹奏楽団体からの演奏者も加え、熱の入った演奏となった。第１部、第２部では、今年度のコンクール演奏曲『秘儀Ⅳ＜行進＞』を皮切りに、クラシックの名曲を披露した。第３部ポップス・オン・ステージでは小中学生、一般来場者の方の飛び入り参加を交えて、おなじみの曲を演奏し、盛り上がりの内に終幕を迎えた。

金井宇宙飛行士帰還報告会 in 八戸工大二高

10月23日、本校第二体育館にて、「金井宇宙飛行士帰還報告会 in 八戸工大二高」が開催された。

この会は、ISS でのミッションを終えて地球に帰還した金井宣茂宇宙飛行士が、日本各地でミッション報告を行うものである。全国から多数の応募がある中から５件が選ばれ、本校が最初の開催校となった。

そんな初めての「金井宇宙飛行士帰還報告会 in 八戸工大二高」であるが、きっかけは金井宇宙飛行士の前職が海上自衛隊に勤務する医師であり、青森県大湊基地での勤務時に度々八戸市を訪れていたことから始まる。そこで本校教諭と趣味を通じて面識があったことが今回の報告会につながっていった。2016年にはスカイプを使用した氏の遠隔講演を実施しており、そこで「(宇宙に行って) 帰ってきたら直に会って話しましょう」という金井宇宙飛行士自ら生徒たちと交わした約束が今回果たされたのであった。

当日、生徒会発案のオープニング・サプライズ演出もあり、開会時から帰還報告会は大盛況。「金井さん」コールと万雷の拍手のなか、生徒たちが作った手旗がひらめき、BGM とともにスポットを浴びた金井宇宙飛行士が登場した。

来校する数ヶ月前は「誰？」という声もあったが、いざ始まるとそのような雰囲気は消し飛び、握手を求めたりハイタッチをしたりと熱気は最高潮に達した。

その後のミッション報告会では、「金井クイズ」から始まり、高校生時代の話や宇宙の無重力空間での話。ISS で共にミッションを行ったちょいワルオヤジのコマンダーのことなどユーモアも交えての話は、時間がいくらあっても足りず、ひとつ聞くとまたひとつ興味が沸いて質問をしたくなるという興味の尽きないものであった。特に質疑応答では質問者の近くに金井宇宙飛行士が行き、質問に答えるということもあって、皆積極的に挙手をしていた。生徒や参加した子どもの質問にひとつひとつ丁寧に答える飾らない姿は近所のお兄さんを思わせる親しさが感じられた。

後半からは、JAXA きぼう利用センター研究員の永尾紗理さんや、フライトディレクタの佐孝大地さん・中村大地さんも登場し、ISS の日本実験棟「きぼう」での活動やミッションを陰で支えるフライトディレクタについて講演があった。

文系も理系も中学生も関係なく、「本物」と会い、話を聞き、場を共有することで刺激を得るのは貴重な経験であった。夢に向けて挑戦する意志や情熱を持ち続けること、あきらめない粘り強さをもつことなど、生徒たちは知識とは別のものを得た時間であり、八戸工業大学第二高等学校・附属中学校であったからこそできた体験であった。

青森県高校総合文化祭

美術部門

10月11日～29日、青森県立美術館で青森県高校総合文化祭美術部門が開催された。本校からは美術コース２年生の種市萌さん（十和田中）と小保内亜海さん（北陵中）が最優秀賞、吉田涼那さん（市川中）が優良賞を受賞した。種市さんと小保内さんの２名は、全国大会への出品者として、県選抜の７人に選ばれた。

写真部門

10月12日～15日、リンクステーションホール青森を会場に、青森県高校総合文化祭写真部門が行われた。県内の高校28校から277名、333点の出品があった。本校美術コース２年の渡邉有羽さん（湊中出身）が優秀賞を受賞し、来年度開催される全国高総文祭佐賀大会へ推薦された。本校からは渡邉さんの優秀賞の他４点が秀作に選出されている。

コンクール受賞

■新聞感想文

第９回「デーリー東北・新聞感想文コンクール」の受賞者が発表され、高校の部で蛯名智美さん（カレッジコース１年／鮫中）の作品「心をつなぐ風の電話」が最優秀賞を受賞した。また、上位７名を本校生徒が独占し、高校部の優秀学校賞にも本校が選出された。受賞をきっかけに今後も伝える力を一層磨いてほしい。

■税に関する高校生の作文

国税庁主催の第57回「税に関する高校生の作文」において、吉田涼那さん（美術コース２年／市川中）が仙台国税局長賞を、上野桜さん（カレッジコース２年／北陵中）が八戸税務署長賞をそれぞれ受賞した。吉田さんは、「税金が何のためにあるか一人一人が考えるべきだ。今後も税金の役割を考え続けたい」と今後の抱負を語った。

■ビブリオ準チャンプ

11月17日、デーリー東北「第５回ビブリオバトル in ハチノヘ」決勝戦が行われ、橋爪駿くん（カレッジコース１年／八戸一中）が「準チャンプ本」を獲得した。橋爪さんは少数言語の中にある、奥深く想像力を掻き立てる単語を集めた絵本『なくなりそうな世界の言葉』（吉岡乾著／創元社）を紹介し、様々な地域に眠る言葉の美しさについて伝えた。

第33回美術コース作品展

12月14日～16日、第33回美術コース作品展が開催された。八戸ポータルミュージアム「はっち」の1F から3F のシアター及びギャラリーを会場とし、美術コース生123名が制作した200点の作品を披露した。

シアター1・2には３年生の卒業制作を中心に100号の油絵、デザイン、服飾、アニメーション、立体作品など各分野の作品が展示され、来場者の目を楽しませた。ギャラリー2、ギャラリー3には1、２年生が授業で取り組んだ日本画や油彩画、デザイン作品を展示し日頃の成果を発表した。

最終日には３年生によるギャラリートークが行われ、卒業制作のコンセプトから将来の夢まで多彩なトークで会場を盛り上げた。３日間の来場者数は1,100名と今年も盛況のうちに終了した。

キャリアサポート（１年生）

11月17日、青森県総合社会教育センター主催の「大学生とカタル！キャリアサポート形成事業」が、本校１年生を対象に行われた。県内の大学生約60名が集まり、「今」をテーマに、自分の高校時代の振り返りや大学での学び、そして将来の夢について熱く語った。生徒のアンケートでは、「自分の将来について真剣に考える機会となった」「今の自分でいいと思えるところもある反面、見直さなければならない点もわかった」など、肯定的かつ前向きな感想が目立った。

陸前高田ボランティア

10月14日、生徒会を中心とした35名の生徒が陸前高田市の公営住宅を訪問し、現地の人と交流をしてきた。

内容は絵画の寄贈、即興での似顔絵描き、せんべい汁と綿あめの提供、そして歌やダンスを披露した。終始なごやかな雰囲気で、住民と楽しいひと時を過ごした。似顔絵を描いた美術コース山田ほのかさんは、「昨年に引き続き今年も参加したら、自治会長の紺野さんが、名前を憶えていてくれました。また、描いた似顔絵をとても喜んでもらい、会場だった集会所の壁に飾ってくれました。」と当日を振り返っていた。

青森銀行　出張授業

11月17日、情報ビジネスコースの生徒を対象に、金融教育講座が開かれた。昨年度に引き続き青森銀行から２名の講師をお招きし、銀行の役割やローンの基礎知識を中心にお金にまつわる有益な情報や考え方を学んだ。

最後に模擬紙幣を使った札勘の体験をした。100万円の紙幣の束を数える難しさに四苦八苦していたのが印象的であった。

調理室リニューアル

この度、今年度の卒業記念品の一環として、本校調理室のガスコンロとガスオーブン、およびガス湯沸かし器が新調された。特にガスオーブンは、タイマーや予熱の機能が完備されており、以前のものに比べて大変使いやすい。今後は、部活動や授業で益々活発な活動が期待される。

蒼穹　さくら幼稚園

12月６日(木)と、７日(金)の二日に分けて行われたクリスマス会。朝早くから座席を確保する保護者の姿が見られた。出番を心待ちにしていた家族の視線に、ちょっとどきどきしているようだったが、幕が閉まるとやりきったという表情をしていた。幕が閉まるまで、最後のポーズをキープしていた子どもたちにずっと拍手がおくられていた。最後のアトラクションでは、全員揃って歌や手話を披露。幼稚園に届いた大きなプレゼントの箱の中からサンタクロース登場‼子どもたちからは、驚きの声が上がったがすぐ歓声へと変わった。プレゼントと可愛いケーキをサンタさんからもらって、ご機嫌で帰って行った。

かたぐるま

幼稚園で培った感性

三歳の誕生日を迎えてすぐにバスに乗り、通い始めた幼稚園。「イヤダ」「行きたくない」と愚図り「タスケテー」と暴れて登園。家族の心配をよそに帰宅は元気で、朝の葛藤は何だったのかと。年長となった今は「行ってきま～す」「ただいま！」と大きな声で頼もしいかぎりです。

園で教えてくださった工作のおかげではさみやのり、テープを器用に使いこなせるようになり、感心する事しきり。持ち帰った作品は家を飾ってくれています。歌を歌う楽しみを覚えたようで、家ではテレビに負けない大声で歌い、私が教える詩吟も恥ずかしがることなく堂々と吟じてくれるようになりました。これも、幼稚園でのびのびと個性を大事に育ててくれているからだと実感しております。成長に大事な時をさくら幼稚園で過ごせたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。残り少ない園での様子を聞くのを楽しみに過ごしたいと思います。

（ばら組　石倉竜吾くんの　おじいちゃん）
石倉　正勝さん

ようちえんってこんなところ

～お店屋さんごっこ～

「いらっしゃいませ～!!
かぼちゃのカップケーキはいかが？」

～年長組 ちびっ子防災広場～

「しょうぼうじさんになりきって、
ほうすいくんれん はじめ!!」

～年長組 飛行機見学会～

「じえいたいのひこうき、おおきいな!!」

とらんぽりん
～ある日の保育日誌～

満３歳いちご組
11月14日（水）

朝の自由遊び。A君が作ったものと同じように作りたいと言い出したBちゃん。A君に作り方を教えてもらっていた。A君は優しく「こうだよ。これ作って、テープを貼って」「そうじゃない。ここに貼るんだよ」と細かく教えていた。Bちゃんがアレンジを加えるとその様子をじーっと見つめ“そこは違う”という表情をしていたが、何も言わずBちゃんのことを見つめている様子が何とも可愛かった。同じものができたBちゃんはもちろん、私も嬉しかった。

「ここにのせると、おしろみたいだね!」

年少組　11月21日（水）

今日は勤労感謝の集いがホールで行われた。ホールへ行く前に、皆のために働いてくれている人に感謝をする日だということを知らせ「身近な人で皆のために働いてくれる人は誰？」と尋ねるとやはりお父さん、お母さんとの答えが返ってきた。でも、今日は、園でお世話になっている人にお礼を言うこと、お父さんとお母さんには家へ帰ってから、と伝えると理解したようだった。幼いながらも「ありがとう」の感謝の気持ちを持ってこれからも過ごしていけるようにしていきたい。

年中組　11月15日（木）

今日は、外でのサッカー教室だった。初めは、寒さにテンションが下がっていたが、大好きなコーチを見つけると喜び、一気に駆けて行った。サッカー教室が好きで毎回楽しみにしている子どもたちは、終始大はしゃぎだった。ウォーミングアップの後、短い時間の試合をたくさん行った。ゴールを決めると「やったね○○ちゃん」と仲間と喜び合ったり、転んで泣き、ぐずっていても少しすると自分から試合に参加したり、それぞれの成長が感じられた。

～焼き芋会～
「あまくてやきたてのおいも、
あーん、ぱくっ!!」

年長組　11月20日（火）

園庭へ出るとたくさんの落ち葉があり、「こっちにきれいなのがある！」「これ大きいよ」とイチョウの葉を夢中で拾っていた。子どもたちに落ち葉集めを手伝ってもらった。はりきって熊手を使い、たくさん集めては袋に入れ、押し込んではまた皆で入れていた。一面落ち葉で覆われていたところがきれいになってくると「だんだんなくなってきて気持ちいいね」と嬉しそうに話していた。季節ならではの体験をこれからも遊びの中に取り入れていきたいと思う。

蒼穹　八戸工業大学第二高等学校附属中学校

八戸大使ふるさとセミナー開催

八戸大使である千葉大学医学研究院名誉教授の野田公俊先生をお招きし、11月21日に八戸大使ふるさとセミナーが開催された。演題は、「ミクロの世界からのメッセージ」で、野田先生が研究されてきた『細菌』についてのお話であった。生徒たちの感想は、「野田先生の話は、面白いし分かりやすい。セミナーを受けることができて、とても幸せです。」や「O－157の繁殖能力は、１個が10時間で10億個（日本の人口の10倍）、それから２時間たつと640億個（世界の人口の６倍）になることが分かった。」など専門的な用語を用いて事細かに書かれてあり、夢中で聞いていた様子がうかがわれた。

八戸工大との生物多様性をテーマとした連携授業

11月17日、生徒たちは八戸工業大学公開講座に、一般参加者と一緒に参加した。「生物多様性を評価せよ」というタイトルで行われ、イワシの稚魚の中に含まれるさまざまな海洋生物の幼生を分類することで生物多様性を理解するというものであった。

生徒たちは３地点から採取したイワシの稚魚とその混獲物を種類ごとにピンセットを用いて分類し、各分類群の個体数を計測するという実習にグループごとに取り組んだ。その結果、生徒たちは難しそうな多様性を表す指数についても、その内容を理解することができたようだ。ある生徒の「私は、生物の種類の多さだけでなく、均等度が高いことも、多様度を高く維持するためには必要であるというところが心に残った。３地点だけでなく、色々な海について調べてみたい。」という感想からもわかるとおり、生物多様性について興味を広げる良い機会となった。

科学の甲子園ジュニア全国大会

12月７日～９日、つくば市で開催された科学の甲子園ジュニア全国大会に、附属中学校１年金澤虎彦君、久保皇太朗君、小向総一郎君の３名が、青森市立三内中学校の３名とともに青森県代表チームとして参加した。

大会２日目、午前中に筆記競技（附属中・三内中合同）と実技競技①（三内中担当）が行われ、午後に実技競技②（附属中担当）が行われた。午後の実技競技②は、80分の時間で、W45cm×D45cm×H45cmの空間に、与えられた材料のみを用いて、直径２cmの金属球が止まらずに長い時間をかけて、接地面まで落ちるような装置を製作し、そのタイムを競うといった競技であった。その結果、80分の時間で、製作を終え、スタート前の検査にも合格を果たした。試技に参加するまでは順調であったが、装置の不具合で、本番では金属球が完走できなかった。上位入賞県では、５分以上の時間をかけ完走を果たしており、全国の層の厚さを身をもって体験する機会となった。

～ ご寄付のお願い ～

○法人一般寄付「学校法人八戸工業大学教育基金」

子ども達の教育環境の充実と拡充を目的として、学校法人八戸工業大学は寄付金の募集を行っております。これまで本学園は地域と連携し、子ども達の教育に努めてまいりましたが、経済環境はますます厳しさを増すばかりです。このような経済環境の中、誠に恐縮ではありますが、本法人教育基金の趣旨をご理解いただき、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

詳しくは、法人ホームページをご覧ください。

https://www.hi-tech.aomori.jp/message

理事会・評議員会

◇11月30日　理事会・評議員会
・資産（旭ヶ丘職員宿舎跡地）の売却に関する件
・資産（野場職員宿舎跡地）の売却に関する件
◇12月21日
・八戸工業大学大学院「学則」変更に関する件
・八戸工業大学「学則」変更に関する件

表　紙　　八戸工業大学第二高等学校
第33回美術コース作品展

蒼穹
Hachinohe Institute of Technology Press SOUKYU　2019(平成31年)　冬号　No.135
［発　行］学校法人八戸工業大学　http://www.hi-tech.aomori.jp　〒031-8501 青森県八戸市大字妙字大開88-1　ダイヤルイン案内（0178）25-3111　FAX（0178）25-2769
八戸工業大学 http://www.hi-tech.ac.jp　八戸工大一高 http://www.kodai1.ed.jp　八戸工大二高 http://www.kodai2-h.ed.jp　八戸工大二高附属中学校 http://fuchu.kodai2-h.ed.jp　さくら幼稚園 https://sakura.hi-tech.aomori.jp